

訪問看護ステーション連携加速化事業

訪問看護師スキルアップ 研修を終えて

訪問看護ステーションひよどり富山
永田 莉

研修プログラム

【日時】 令和元年9月27日（金）

【会場】 厚生連高岡病院

【内容】

- ・ 人工呼吸器管理（NPPV）
- ・ 褥瘡管理
- ・ ストマ管理：がん終末期のストマ管理
- ・ 緩和ケア：在宅で看取りを迎える利用者、
家族への関わり、ACPについて
- ・ 疼痛緩和：疼痛アセスメントとケア
- ・ 連絡会議

研修参加の目的

訪問看護師2年目

- ・ 緩和ケア
- ・ 看取り

→ 自分の知識・経験不足から
適切なケアが出来ているのか不安



研修参加の目的

不安・悩み①

臨死期の変化を家族に伝えたいけど、
どう伝えたら良いのか分からない。
ACPのタイミングは??



- ・ 亡くなる時の話をしたら、
本人や家族を怖がらせてしまうのでは？
- ・ ACPってどうやるの？

研修参加の目的

不安・悩み②

的確に状態観察やアセスメントは
出来ているのだろうか？



- ・ 訪問中の状態観察が十分に出来ていなかったり、言いたいことが伝わっていなかったら…

本人と家族の大切な残りの時間を無駄にして
しまうかもしれない。

研修で学んだこと

◎緩和ケアとは

◎ACPについて

◎看取りを支える看護について



研修で学んだこと

◎緩和ケアとは

・定義

「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処を行うことによって、苦しみを予防し和らげることで、生活の質（QOL）を改善するアプローチである」

世界保健機構（WHO）による緩和ケアの定義：2002年

研修で学んだこと

◎緩和ケアとは

従来のわたし：

『緩和ケア＝痛みそのものを和らげるケア』

というイメージが強かった。

痛みをどうにかしてあげたいけど、

何もできなかつた…と思うことが多かつた。



苦痛を和らげるだけではない。

日常を支える、意思決定の為の支援、家族ケア、

全てが緩和ケアである。

- ・いつでも、どこでもできる。

研修で学んだこと



◎ACPについて

命の危機が迫った状態になると約70%の方が医療やケア方法などを自分で決めたり望みを伝えることが困難になる。



今後のことを出来る限り知っておくこと、話し合っておくことが大切。=ACP

研修で学んだこと

◎ACPについて

ACP：アドバンス・ケア・プランニング/人生会議
今後の治療・療養について患者・家族と
医療従事者があらかじめ話し合う自発的な
プロセス。

- ・出来る限り行うことが望ましいが、
その人の心構えが出来ているかが重要。
- 全員に出来る/やろうと思わないことも大事。

研修で学んだこと

◎ACPについて

- ・ 価値観はひとそれぞれ
→家で亡くなるのが良いことと思っているのは自分（医療者）だけかもしれない。
医療者が発した言葉で、他の選択肢を閉ざしてしまう可能性もある。
医療者の価値観を押し付けない声のかけ方をすることが必要。

研修で学んだこと

◎看取りを支える

- ・死に対する受け止め方・考え方、死への向かい方は個別性が大きく様々。
- ・画一的なものはない。
- ・良し悪しの問題では無い。

→ありのままを受け入れ支える。

その人らしさを最期まで尊重した関わり・ケア。

枕詞を上手に利用すると話しやすくなる。

まとめ

- ・ 専門的な知識を得ることができ、自分の不安を軽減することができた。
- ・ 適切なタイミングでACPを実践することで、より多くの人々が希望の場所での最期を迎えることが出来るのではないか。
 - 病院看護師と訪問看護師の連携強化を図り、情報共有をしていくことが必要である。